

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和1年12月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム「ゆうゆう」
所在地	鹿児島県霧島市隼人町姫城一丁目276番地 (電話) 0995-44-6180
自己評価作成日	令和1年11月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和1年12月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ゆうゆう」は、日当山温泉郷の閑静な住宅街の一角にあり、施設の入浴でも温泉が楽しめる。医療法人(隼人温泉病院)が運営し、入居者の日常の健康管理や医師の訪問診療・訪問看護師の健康チェックや救急時対応などが充実している。認知症により日々のものを忘れ、不安な気持ちで生活を送っている入居者が多く、職員はその日一日を自分らしく不安にならずに穏やかに過ごせるよう支援している。また、入居者の意欲や残存(潜在)機能を奪ったり、その人らしさを阻害する過剰介護にならないように配慮しながら取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは日当山温泉郷の住宅街の一角にあり、温泉が引かれ日常的に温泉浴を楽しむことができる。隣接の母体医療機関である隼人温泉病院の他に老人保健施設や訪問看護ステーションなどの事業所もあり、連携して協力体制を築いている。日常のケアの充実に管理者と職員が一体となって取り組んでおり、家族からの信頼も厚い。

管理者および職員は、利用者や家族とのコミュニケーション、信頼関係の構築を大切に考えている。日常のケアや会話で把握できた利用者・家族の意見や思いを、日々の申し送りや介護記録等のほか、毎月の全体会議やユニット会議で全職員が共有し、ケアに具体的に反映できるように取り組んでいる。家族へは来所時の会話やホーム便り、電話やメールなどで必要な報告を確実にしている。

管理者は職員に対して日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、定期的及び随時の個別面談も含め、日頃から職員と密にコミュニケーションを図っている。職員同士の連携も良好であり、毎月の全体会議やユニット会議でもケアに関する意見交換は活発で、これらを検討して業務やサービス内容の改善に具体的につなげている。

防災への意識は非常に高く、年1回は地域の消防署や住民の協力を得ながら消火訓練・避難訓練を実施すると共に、自然災害を想定した自主訓練も行い、訓練実施後は反省点を協議・整理して体制整備に努めている。また、隣接する母体医療機関や老人保健施設等の職員とも密接に連携を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、法人の理念を念頭に置き、入居者が自分らしく生活できることを意識して支援している。個々の人格を尊重し、管理者・職員も同じ生活者として理念を共有し、生活支援を実践できるように努めている。	職員で話し合っ作成した理念を事務所やフロア、玄関に掲示している。全体会議の際などに意義をふり返り、利用者の人格を尊重して、利用者が地域や家族と関わりながら、その人らしく穏やかに暮らせるように支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議をきっかけに自治会へ入会し、回覧板による機関紙の配布や自治会の行事（花見・運動会等）に参加している。しかし、身体機能低下の影響もあり、地域へ出る回数が減少している利用者も中にはおられる。	自治会に加入して花見などに参加し、散歩や買い物等で出会う地域の方と挨拶や会話を交わしている。初午祭の馬踊りやこども神輿の立ち寄りのほか、中学生の職場体験学習や専門学校の研修及びボランティアの受け入れ、託児所の園児との交流もあり、近隣の方が立ち寄るなど地域と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	散歩や買物などを通して、地域高齢者と接する際の仲介等は実施しているが、その場のみでの関わりで地域への認知症の理解や支援方法に繋がっているとまでは言えない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2ヶ月に1回は確実に開催できている。運営推進委員から頂く意見を基に、利用者が安心して生活できるように、日々サービスの質の向上に努めている。	会議は定期的開催され、市職員・自治会長・民生委員・近隣のグループホーム管理者・家族等が参加している。ホームや利用者の状況や問題点への取り組み状況等の報告がなされ、参加者とは十分に意見交換を行い、利用者へのケアや地域との交流等に活かされている。また、会議時に防災訓練を実施して、委員から助言も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>現場の職員は行政と直接関わることは少ないが、管理者と事務職は施設の空き状況の報告や、様々な活動・情報交換を行い連携を図っている。</p>	<p>市担当者からは運営推進会議で多くの意見や提案をもらっている。また、電話や訪問で利用者に関すること、各種の手続き上の相談ごとに助言・対応してもらい協力関係を築いている。市主催のグループホーム連絡会等にも出席し、意見や情報の交換を行い、認知症予防研修などの活動につなげている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束ゼロを継続できるように、3ヶ月に1回の間隔で適正化を目的とした勉強会・検討会を開催している。利用者個人の意思を尊重しながら、主体的に活動できるよう支援しており、その行動が人命を脅かす危険な行為でない限りは抑制しないようにしている。（現在、危険な行動はみられていない為、拘束を実施していない。）</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組むため、委員会で研修や話し合いを行うと共に、全体会議でも事例を基に対応を検討している。特に、言葉をさえぎることや気持ちの押さえつけなどの防止に留意して、利用者の意思を尊重した支援に取り組んでいる。また、居室や玄関の施錠は行っておらず職員は連携して見守りの強化に努め、近隣の方々とも見守りや声かけをしてもらえるような関係を築いている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束の延長で虐待が発生する事が多いことから、身体拘束廃止委員会を中心に虐待や人権擁護に関する勉強会を開催し、自分たちの日常の言動を検証しながら振り返り、人権を尊重した介護や生活支援を心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>対象者がいないこともあり、研修会等は現在実施していない。研修会等があっても、制度内容が複雑であるため職員の参加に関しては消極的な状況がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者本人にも説明をするが、本人の意思よりも家族が最終的に決定・契約しているのが実情。制度改定等がある際は、十分な説明を行い納得される家族が最近が多い。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、認知症で意思表示や表現が上手くできない為、支援者側が利用者の表情や行動を観察しニーズの改善に心がけている。主に面会時やカンファレンスの時に、要望等はないかを意識して尋ねている。介護する側とされる側という関係ではなく、同じ人間として同等に解決できるよう話をしている。	利用者とは声かけもまめに行い、日ごろの対話をはじめ意見や思いを表情や行動から把握するように努め、家族とは来所時やカンファレンス時の対話・運営推進会議を中心に意見交換を行い、職員が内容を共有しながら、提供するサービスの質の確保及び向上に取り組んでいる。また、家族にも来所時の対話や電話、メールやホームだよりなどで必要な報告を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職員会議を定例化し、管理者は職員の意見に耳を傾け、働きやすい職場づくりに配慮しながら運営している。職員から出された意見や要望は、管理者の判断あるいは代表者に上申して対応を検討している。	管理者は、毎月の全体会議や日々の申し送り時に職員の意見や提案を聞き取ると共に、頻繁に声掛けを行い話しやすい雰囲気作りに努めている。また、定期的に個別面談も実施し、得られた意見や提案を働きやすい職場環境づくりのほか、業務改善やサービス向上につなげるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、事務長が職員の能力や実績、勤務態度などを職員考課で評価しているほか、人員配置や職場環境、雇用条件などに理解を示し、グループホームとしての運営や活動の実績についても一定の評価を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者の指示のもと、管理者が職員を対象にした勉強会に参加する機会を設け、自己研鑽に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、グループホーム協議会や地域密着型サービス事業者連合会などの各種研修会や講演会にはあまり参加できておらず、他事業所との連携や親睦・交流を図れていない。しかし、他事業所の運営推進会議に参加し、運営や業務などの内容については話し合う機会はある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>良好な関係構築ができるよう、入居前から可能な限り本人のもとへ訪問している。その際に、本人が困っている事や不安な内容を把握し、入居の際に軽減できるよう心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居と同時に、家族の負担はやや解消されていると考えられる。経過を見ながら、早期にご家族の不安内容を解決していき、信頼関係の構築が図れるように心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談を受けたとき、大半は住み慣れた家でその人にあったサービスを提供できる場合が多くあるため、まずは在宅サービスを中心に利用できるよう案内(紹介)している。入居は、自宅対応がどうしても困難な時の最終の対応にしてほしいとお願いしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護する側とされる側の関係ではなく、共に支え合って生きる関係であると考え、人として対等な立場の支援に心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も本人を支えるケアチームの一員として位置づけ、家族だからできることをお願いしている。職員は家族ができないことを側面から支える気持ちで支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの友人や知人に入居されたことを伝え、訪問していただけるよう働きかけている。ここに来た(入居した)時点ですでに途切れている場合が多く、一部の利用者を除いては継続した支援に至っていない。	入所時の聞き取りや日常会話から、本人が希望する散歩や買い物、近隣のドライブなどに出かけている。菜園・花壇の手入れやフロアでのグランドゴルフ、風船バレーの支援のほか、利用者の家族や知人・友人等の来所時にはゆったりと過ごしてもらっている。家族との夕食や一時帰宅なども勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士が関わり合う(支え合う)場面づくりに努めている。しかし、なかには認知症の程度や性格等によって無関心だったり、自分のことで精一杯の入居者も多く、関係性の構築に苦慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するのはほとんど死亡されるケースが多く、残された家族は徐々に足が遠のく状況が多い。家族は高齢や遠方の方が多いため、仕方がない事とも考えられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が、望む暮らしを送れるようにアセスメント時に主に把握している。困難な場合は、ご家族から情報を収集したり、生活の中で言葉・仕草・表情が変化する場面を見逃さないよう意識している。	利用開始時の本人や家族からの聞き取りや家族来所時の対話、日常の言葉や表情・所作から思いや意向を把握するように努めている。日々の申し送りやミーティング、全体会議などで共有を図り、必要な場合には家族とも相談しながら最良の支援を目指す努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族面談で情報を入手し、家族や友人などの面会・訪問時に細かな情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して個々の言動を観察すると、前日には見られなかったような動作や言動がある。職員間で情報交換・共有しながら、24時間の状況を把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やミーティングで、本人・家族も交えた意見交換、研修や経験などで得た事などを参考にしながら、本人のニーズに添ったプランニングを心がけている。	担当者会議や日頃の対話などで本人・家族から希望や意向を聞き、主治医や看護師・職員からの意見を反映した詳細な介護計画を作成している。介護記録やモニタリング、申し送り、ユニットごとのスタッフミーティング、プランの実施状況などを通じて、日々の利用者の状況を確認し、必要な変更内容を評価して計画の見直しを行い適宜修正している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をはじめ、モニタリングなどから個人の状態を把握・共有している。ユニット間で開催しているスタッフミーティングを、主に介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人としての特性を活かし、病院や訪問看護が協力医療機関としての健康管理や救急時対応を担っている。又、介護老人保健施設とは、行事交流を図れたらと考えているが、最近の実績がない。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防などは、安心・安全な生活を営む上で必要不可欠であり、徘徊や行方不明の際の徘徊SOSネットワークによる捜索要請のための情報提供、防火・防災訓練の指導などで連携している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設のグループホームの為、医療管理体制が整っている。併設病院にない診療科については、家族や本人かかりつけ医のほか、希望する専門病院などを選択されている。	隣接した母体病院をかかりつけ医としている利用者が多く、定期的な往診を受けられることが、毎日を安心して過ごすことにつながっている。他科受診については家族または職員が同行している。訪問看護とも連携し、かかりつけ医及びご家族との意見交換は十分になされ、緊急時も適切な医療が受けられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制を導入し、併設の病院に加えて、訪問看護サービスとの連携も整い、医療管理はもとより、健康管理も充実している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入居者の入退院を、施設管理者と併設病院の医師・地域連携室で調整支援している。退院の際も、事前に施設側・訪問看護ステーションへの情報提供もあり、安心して早期退院・回復が可能となっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>寝たきりや看取り介護、終末期医療の可能性が予測される入居者に対しては、本人・家族の意向を確認し、理解と協力が得られる場合は、医師や看護師も交えた具体的な対応を話し合い、前向きに検討しながら取り組んでいく体制ができている。現在は実績がない。</p>	<p>医療連携体制があり、重度化や終末期のケアについては、家族及びかかりつけ医、訪問看護スタッフと十分に話し合い、方針を共有して、その意向を反映できるように体制を築いている。本人や家族の思いの変化も含めて、様々な状況の変化にもホームとして可能な限り支援・対応できるように努めている。また、重度化や看取りに関する研修も充実を図り、職員のスキルアップや理解の促進にも取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急処置セットやAED(自動体外式除細動器)、吸引器等を常備している。また、こうした機器を使った訓練や講習を実施している(吸引器は看護師資格所持者のみ使用)。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>回数は少ないが、運営推進会議を通して、職員・地域の委員と一緒に防火訓練・心肺蘇生を実施している。過去に水害に遭っている地域でもあるため、今後は回数等も増やして地域と連携した訓練や具体的に意見交換を実施する必要があると感じる。</p>	<p>時には運営推進会議も利用して自治会長や民生委員など地域住民の参加も得て定期的に消防署の指導の下で訓練を実施している。また、自然災害を想定した自主訓練も実施して反省会も開いている。関連する研修や救命講習等も行われ、スプリンクラーや自動通報装置等の設置、救護マットを含む備品や非常食・飲料水などの確保も十分な状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して管理者・職員一同介護にあたっている。特に入浴や排泄など、誰もが他人に介護されることに抵抗がある介助については、羞恥心に配慮しながら対応している。	利用者の人格を尊重し、日々のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、ミーティング等を通じて方法を共有して実践に取り組んでいる。利用者の個人記録や居室の保護と共に、実習生や職場体験学習、ボランティア等の受入れに際しても利用者の情報保護に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせた対応を心がけている。人それぞれ生活習慣が違うことを理解し、介護者主導で生活をするのではなく、入居者自身が主体的に活動できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムの安定を目的としたタイムスケジュールはあるが、基本的に在宅生活の延長施設という位置づけであるため、一人ひとりが自分のペースで好きなことをして過ごすことができるように支援する事を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみやおしゃれに興味を失っている高齢者が多く、定期的に理・美容の訪問サービスを活用している。又、外出の際は、できる限り着たい洋服を本人に選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌いを把握し、旬の食材を使った味付けや彩りに配慮している。しかし、重度化してきている事もあり、一緒に食事準備をする事が無くなっている状態。施設行事の際には、利用者と一緒に調理活動を実施している。	日常会話を通じて好みをくみ取り、菜園や家族等からの差し入れの野菜も含めて旬の食材を活用し、調理方法や盛り付けなど利用者の楽しみにつながる工夫をしている。おせち料理やおはぎ、年越しそば等の季節の行事食や誕生会・敬老会等の特別食、園庭での食事なども企画し、家族との外食も勧められている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量や嗜好などを把握しており、個別に水分摂取量を確認して脱水予防に努めている。意思表示が困難な入居者で、摂取動作・嚥下・咀嚼などに問題を抱える入居者に対しては、食事形態の工夫をしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭(歯磨き・うがい・義歯の手入れ)の励行を指導(声かけ・見守り・介助)している。また、食事中に咀嚼や嚥下の具合を観察しながら食事形態や口腔状態に応じて口腔衛生を実施したり、訪問歯科診療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄を継続できるように支援している。個々で排泄パターンが異なるため、失禁をしないよう声掛けをはじめ、催す仕草・行動がある際は誘導をしている。又、尿量に応じてパッドも選定している。	利用者の羞恥心や不安軽減のために誘導や声かけには十分に配慮しながら、排泄チェック表も活用して可能な限りトイレでの排泄を支援している。個人の習慣や身体機能にも合わせた排泄用品の使用、また、支援の工夫はケアプランにも反映させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対して飲食物の工夫はもとより、適度な運動が必要であることを職員全員が理解し、心がけている。下剤の必要な高齢者もいるが、薬に頼らず、水分補給や腹部のマッサージなどの刺激も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や回数は臨機応変に対応できるが、時間帯は日中に限られる。24時間温泉を使用できるが、朝や夜は対応できる職員を確保できないため、普段は実施していない。	利用者の健康状態や安全に配慮しながら、場合によってはシャワー浴や清拭・足浴に変更するなど、温泉をゆつたりと安心して楽しめるように支援している。入浴をためらう場合には、職員の交替や繰り返し声かけも工夫して利用者本位の支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を尊重しているが、生活習慣を継続できない方が多い。改善の必要がある人は生活リズムを整えながら、状況に応じて臨機応変に対応している。睡眠導入剤等を安易に使用しない、自然の眠りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できるだけ薬は使用しない方が良いが、飲まなければならない薬もある。個々の疾病を把握し、薬の必要性、症状などを理解できるように職員一人ひとりが学ぶ姿勢で取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画を基に、個々の能力・関心・意欲・性格などに応じて日課（手伝い）や役割、趣味活動などへの支援を行っている。若干、職員が支援・援助してくれるという依存心があるため、自主性や意欲を引き出せないままに終わる事もあり。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物、外食を中心に屋外活動を実施している。しかし、一人ひとりの希望の日程ではなく、施設の行事計画のもと実施している状況。入居者から希望の場所・要望を聞き取れているが、具体的な主導は職員になっている。	利用者の健康状態や天候を見ながら、時にはボランティアの協力も得て、近くの公園や河川沿いの散歩・日光浴、買い物やドライブなどに出かけ、菜園や花壇の手入れなども支援している。年に数回は季節ごとの花見や自治会主催の花見にも出かけている。家族と一緒に一時的な帰宅や外食も勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を使う必要性がないこともあるが、興味や関心のない方々が多い。お小遣いや買物、支払いなどはその人の能力や意欲に応じて対応している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話できる人、手紙を書ける人、その人の能力に応じて対応している。しかし、自主的に希望される方はいなく、職員側から声かけしている。</p>			
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の食堂兼談話室は広い空間を確保しており、絵画や写真を飾って季節を演出し雰囲気づくりに配慮している。また、食堂の席が決まっていることで、入居者は自分の場所として認識し、そこに座ることで安心する人が多い。夜間は場所を認識できるように照明に配慮している。</p>	<p>明るく広いリビングは開放感があり、季節の花や行事の写真・手作りの作品・地域の方から送られてくる絵手紙など、季節を感じられるよう工夫されている。使いやすいように高さにも配慮された椅子やテーブルのほか、畳のスペースもあり、気持ちよく過ごせる環境である。トイレはゆったりと広く、浴室も温泉をゆったりと楽しめる。全体に清潔感があり、室温や湿度にも十分配慮されている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間(食堂・談話室)としての“集いの場”に対し、個人または少人数でくつろいだりできる空間・プライバシーが確保できる場所は、居室以外にはない。どちらかといえば職員が入居者の所在確認や見守りがしやすい環境になっている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真や使い慣れた日用品雑貨などを置き、自分の部屋として心地良く過ごせるように配慮している。しかし、現実には部屋で過ごす時間は少なく、日中はひと気があるホールで過ごす入居者が多い。</p>	<p>居室には自宅から持参した馴染みの小物や雑貨、写真などが置かれ、穏やかな気持ちで過ごせるよう工夫されている。エアコンやベッド、洗面台のほか、備え付けのクローゼットは十分な大きさが確保されており、衣類等を片づけるのに役立っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーや手すりの設備と自助具で生活(活動)ができるよう、その人の能力や意欲に合った環境づくりを心がけている。また、椅子やテーブルの高さ、肘かけの有無などに配慮しながら、椅子の使用を奨励し、車椅子の常習化防止に取り組んでいる。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない